

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 1年次	科目のねらい					
授業科目	成人看護学概論	単位 1単位	ライフサイクルにおける成人期の特徴と発達課題を理解する。様々な個人の生活様式や多様な価値観の中で生活する成人期にある対象の健康問題を理解する 成人期における健康の保持増進・疾病予防の援助と看護の役割を理解する 成人保健の動向および看護の役割について理解する					
担当講師	大西 恵理 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間						
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる 3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる 4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる 5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる							
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目		
学習内容	1 ・ 2 ・ 3	成長・発達過程からみた成人の特徴 保健統計からみた成人の健康の動向 成人を対象とした保健・医療・福祉施策	<ul style="list-style-type: none"> 対象理解:大人になること、大人であること 生涯発達とは 発達課題・発達段階(エリクソン・ハヴィガースト・レビンソン) 各発達段階の特徴(青年・壮年・中年・向老期) 我が国の総人口(年齢別、生産年齢・労働人口) 成人の健康の状況(平均・健康寿命、健康格差、職業性・業務上疾病、作業関連疾患) 受療状況・生活習慣病・メンタルヘルスと自殺者 保健にかかわる対策(健康増進法) 生活習慣病(特定建国審査と特定保健指導) 医療にかかわる対策(医療法) 疾患対策(がん対策基本法) 労働者の健康対策(労働基準法、労働安全衛生法) トータルヘルスプロモーション、メンタルヘルス) 福祉に関する対策(障害者基本法、障害者総合支援法) 	課題 講義 グループワーク 発表	大西 恵理	基礎分野 心理学 文化社会学 情報倫理 人間関係論演習 教育学 マネジメント論 哲学		
	4 ・ 5	成人への看護アプローチの基本	大人の健康行動のとらえ方 大人の学習(アンドラゴジーモデル) 行動変容を促すアプローチ(自己効力感<バンデューラ>、エンパワメント、強み、意思決定支援) 自己効力感に着目した症状マネジメント	課題 講義		専門基礎分野 看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 病態生理学総論 疾病治療論 病態と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ IV・V・VI 保健医療論 食事療法 臨床薬理学 関係法規Ⅰ・Ⅱ 社会福祉Ⅰ・Ⅱ 公衆衛生学 リハビリテーション療法		
	6 ・ 7	ヘルスプロモーションと看護	ヘルスプロモーション ・予防のレベル ・集団の健康を増進するための方法(ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ) ・ヘルスプロモーションを促進する援助	講義 課題を通して グループワーク		専門分野 看護学概論 共通看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ヘルスアセスメント 看護の思考過程 経過に応じた基本技術Ⅰ・Ⅱ		
	8 ・ 9	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	・急性期看護とは ・急性期にある人の特徴 ・急性期にある人看護(危機理論;アギユラ・フィンクの危機モデル)	講義		成人援助論 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 老年看護学概論 老年援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
	10 ・ 11 ・ 12	慢性病とともに生きる人を支える看護	・慢性病の特徴 ・慢性病をもつ人の特徴 ・慢性病をもつ人の特徴(病みの軌跡) ・慢性病とともに生きる人を支える(セルフケア、セルフマネジメント<セルフモニタリング・自己効力感、教育的アプローチ、強み、折り合い>)	講義		地域と看護 地域・在宅看護論 訪問看護と看取り 精神看護学概論		
	13 ・ 14	障害がある人の生活とリハビリテーション	・障害とは(WHOの障害分類、国際生活機能分類<ICF>) ・障害認識過程(フィンクの危機モデル、アギユラの危機モデル) ・障害がある人とその生活を支援する看護	課題 グループワーク		母性看護学概論 小児看護学概論 災害看護と国際看護		
	15	人生最期のときを支える看護	・人生最期のときにおける医療の現場 ・人生最期のときにおける緩和ケア(ターミナルケア、ホスピスケア、緩和ケア、エンドオブライフケア)	講義				
	16	まとめ(45分) 終講試験(45分)	・人間にとっての死(死の判定、死のプロセス) ・全人的苦痛(トータルペイン) ・死の瞬間(キューブラ・ロス) ・人生最期の時を支える看護、看護師の役割・機能(ケアリング、意思決定支援、アドバンスケアプランニング<ACP>、チームアプローチ)	動画視聴 グループワーク レポート提出 講義				
	評価方法	筆記試験(8.5割) レポート・授業出席・態度(1.5割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする						
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会						

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論 I	単位 1単位	恒常性維持が困難になった対象を疾患、機能・病態と治療から捉えて特徴を理解しその看護を学ぶ。内部環境調整機能に障害をもつ患者の看護では生活習慣病や慢性期疾患を持ちながら身体障害と共存していく対象への教育的アプローチを学ぶ。腎機能疾患をもつ患者の看護では多臓器疾患との関連や医療の動向、透析治療と導入を行う患者の看護を通して、慢性疾患の増悪からシャント造設を行い退院に向けて自己管理していく患者の看護を学ぶ			
担当講師	堀之内 泉 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:4年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	身体障害と共存する患者の看護 慢性期の患者の看護	セルフケア 成人の学習支援、自己効力感 エンパワーメント セルフマネジメント	講義	堀之内 泉	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習
	2	内分泌系疾患患者の看護	視床下部一下垂体系疾患患者の看護	講義	田中 友香	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学 I 看護形態機能学 II 看護形態機能学 III
	3		甲状腺、副甲状腺疾患患者の看護 内分泌器官の構造と機能、病態・検査・処置 症状に対する看護			
	4	事例検討	糖尿病患者の看護(事例展開)	講義 グループワーク	堀之内 泉	看護形態機能学 III 臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法 疾病治療論
	6		・機能と病態、検査・処置と看護 ・機能別アセスメント (健康管理・健康知覚、栄養・代謝、排泄) 看護問題の抽出、看護計画			
	7	事例検討発表	糖尿病患者の患者指導	発表	堀之内 泉	病態と治療 II 病態と治療 IV
	8	事例患者への援助	簡易血糖測定	演習	堀之内 泉	
	9	腎機能疾患を持つ患者の看護	腎臓の構造と機能、検査・処置、症状に対する看護	講義	小野 由加子	専門分野
	10	腎不全とは	腎不全とAKI・CKD、糖尿病性腎症 医療の動向	講義	小野 由加子	看護学概論 経過に応じた看護技術 I 経過に応じた看護技術 II
	11	腎代替療法を受ける患者の看護	腎移植を受ける患者の看護	講義	小野 由加子	看護の思考過程 ヘルスアセスメント 基礎統合演習
	12		腹膜透析を受ける患者の看護	講義	小野 由加子	成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	13		血液透析を受ける患者の看護 保存期～透析導入前 維持期 透析中止の判断	講義	小野 由加子	
	14	退院指導	シャント管理、食事・飲水指導、日常生活への看護	講義	小野 由加子	
	15	まとめ	事例検討に関するまとめ	講義(45分)	堀之内 泉	
	16	終講試験	筆記試験	45分		
	評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院					

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅱ	単位 1単位	消化機能障害、代謝機能障害をもつ患者の病態と治療、機能障害から起こる症状に対する看護を学ぶ。消化機能障害をもつ患者の看護では、急性期から回復期へ向かう患者の障害受容、ボディイメージの変化、退院後の生活指導を学ぶ。代謝機能障害をもつ患者の看護では、エンドオブライフケア期(終末期)にある対象の苦痛・苦悩と症状の緩和に向けた援助について学ぶ。			
担当講師	喜多 直 看護師経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目	
	1 5 4	消化器疾患をもつ患者の看護 食道疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護) 胃・十二指腸疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護) 腸・腹膜疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護) 肝臓・胆嚢疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護) 膵臓疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護)	講義 講義 講義 講義	喜多 直 喜多 直 喜多 直 喜多 直	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習	
	5	ストーマ造設患者の看護 心理的支援 (ボディイメージの変容と受容に向けての関わり) 術後合併症、皮膚障害 ストーマ装具の選択 セルフケア指導 退院後の支援、ストーマ外来での実際	講義	根岸 睦	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法 リハビリテーション療法 疾病治療論 病態と治療Ⅱ	
	6	ストーマサイトマーキング	演習	根岸 睦		
	7 5 9	エンドオブライフケア期にある患者の看護 全人的苦痛の理解、末期患者の心理プロセス 霊的(スピリチュアル)面 価値観・死生観・人生観 トータルペイン、がん性疼痛のメカニズム 疼痛緩和・症状と苦痛の緩和(オピオイド) 緩和ケア ケアプランと意思決定支援	講義	塚 久美子	専門分野 看護学概論 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 看護の思考過程 ヘルスアセスメント 基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理	
	10 5 13	事例検討 肝臓がん末期の患者の看護 ・対象理解、アセスメントの視点 ・問題の抽出 ・看護の実際	講義 グループワーク	山田 緑		
	14	事例検討発表 患者に合わせた安寧・安楽を考えた看護援助 症状と苦痛の緩和の看護	発表 グループワーク	山田 緑		
	15	まとめ(45分) 事例検討に関するまとめ		山田 緑		
	16	終講試験(45分) 筆記試験		山田 緑		
	評価方法	筆記試験、レポート 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院				

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅲ	単位 1単位	運動機能障害や女性生殖器疾患をもつ対象を通して機能障害をもちながら社会復帰に向かう対象への支援を多職種連携と看護の機能から学ぶ。 血液疾患患者の看護では、疾病と付き合いながら生活してきた対象が、疾病の治療・回復期に至る看護を通してその人らしく生活するための看護について学ぶ			
担当講師	塚本 友恵 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	運動器疾患をもつ患者の看護	大腿骨頸部骨折・大腿転子部骨折	講義	西尾 真由美	基礎分野
	2		腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 脊髄損傷 関節リウマチ 骨腫瘍	講義	西尾 真由美	心理学 人間工学 人間関係論演習
	3	援助に必要な知識と技術	身体機能の評価 日常生活動作(ADL)の評価 基本肢位・良肢位と廃用症候群の予防 セルフケアを支える道具の活用 運動疾患と保険・医療・福祉制度	講義	西尾 真由美	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 臨床微生物学 臨床薬理学
	4	リハビリテーション看護	リハビリテーション看護の実際 ・障害の受容 ・セルフマネジメント ・家族支援 社会参加 制度の活用 ・多職種チームの連携 ・住居のアセスメント	講義	西尾 真由美	食事療法 リハビリテーション療法 疾病治療論 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ
	5	事例検討	大腿骨頸部骨折の患者の看護	講義	長澤 亜由美	専門分野
	6		・対象理解、アセスメントの視点	グループワーク		看護学概論
	7		・看護の実際			経過に応じた看護技術Ⅰ
	8		・退院に向けた指導	講義(45分)	長澤 亜由美	経過に応じた看護技術Ⅱ 看護の思考過程 ヘルスアセスメント
	9	女性生殖器疾患(乳癌)と リハビリテーション看護	乳癌の患者の看護 医療の動向 病態と治療 疾患を持つ患者の経過と看護 症状とマネジメント リンパ浮腫 リハビリテーション看護の実際 ボディイメージの変化と受容	講義 グループワーク	溝口 綾	基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	10	女性生殖器疾患(子宮癌)と リハビリテーション看護	子宮癌の患者の看護	講義	塚本 友恵	
	11		医療の動向 病態と治療 疾患を持つ患者の経過と看護 症状とマネジメント リハビリテーション看護の実際 ボディイメージの変化と受容	グループワーク		
	12	血液疾患の患者の看護 白血病患者の看護	医療の動向 病態と治療	講義	塚本 友恵	
	14		疾患を持つ患者の経過と看護 症状とマネジメント	グループワーク		
	15		化学療法と看護、輸血と看護	講義	塚本 友恵	
	16	終講試験	筆記試験	(45分)		
評価方法	筆記試験、レポート 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 臨床看護総論 医学書院					

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅳ	単位 1単位	呼吸器疾患の患者の事例を通して、周術期にある患者の身体侵襲とその看護を学ぶ。 手術前・中・後の患者の変化から予測の視点と術後合併症の予防とリスク管理について、ゴードンの機能別アセスメントシートを用いて対象の疾患・病態生理から対象の状況と変化を捉え個性のある看護を考える。 また、形態機能の変化に合わせ、退院後の生活を見据えた生活指導についても学習する。			
担当講師	栗田 晃正 看護師臨床経験:10年以上 岸本 早央里 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:3年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	周術期の患者の看護	生体反応と身体侵襲	講義	栗田 晃正	基礎分野
	2		術後の合併症とその成り立ち、看護 創傷治癒過程とその看護	講義	栗田 晃正	心理学 人間工学 人間関係論演習
	3	手術を受ける患者の看護	術前の患者の看護 ・術前のインフォームドコンセント ・術後の合併症を見据えた術前検査と準備	講義	栗田 晃正	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ
	4		術中の患者の看護	講義	高橋 文	看護形態機能学Ⅲ
	5	呼吸器疾患患者の看護	術後の患者の看護	講義	栗田 晃正	臨床微生物学 臨床薬理学 食事療法
	6		肺がんの検査、治療と看護 人工呼吸器を装着する患者の看護	講義	原田 雅美	リハビリテーション療法 疾病治療論
	7		事例検討	肺がんで手術を受ける患者の看護 ・対象理解 アセスメントの視点 ・看護問題の抽出 ・看護計画の立案	講義 グループワーク	岸本 早央里
	9	術直後の患者の援助	術直後の患者のフィジカルアセスメント 末梢循環ケア(弾性ストッキング)	発表	岸本 早央里	専門分野 看護学概論 経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ 看護の思考過程
	10		気管内吸引	講義 演習	原田 雅美	基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全
	11	創傷処置とドレーン管理の実際	初回離床 ドレーン挿入部の処置 排痰ドレナージ	講義 演習	岸本 早央里	看護管理・看護倫理
	12		回復を促進する看護	術後合併症の予防と発症時の援助	講義	岸本 早央里
	13	退院後を見据えた看護	退院指導	講義	岸本 早央里	
	14	まとめ	事例検討に関するまとめ	講義(45分)	岸本 早央里	
	15	終講試験(45分)	筆記試験		岸本 早央里	
	評価方法	筆記試験、レポート 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
	テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 看護技術プラクティス 学研				

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅴ	単位 1単位	現代の救急医療の現状と救急医療システム、初期対応とアセスメントについて学ぶ 循環器疾患患者を通して救急搬送時のアルゴリズム(検査、治療)、症状に対する看護、包括的 リハビリテーションと退院に向けた支援・退院指導を一連の看護展開の中で学ぶ			
担当講師	長澤 亜由美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	関連科目
	1	急性期の看護	急性期看護の対象と心身の特徴 治療の特徴と患者、家族への影響	講義	永倉 郁恵	基礎分野 心理学 人間工学 人間関係論演習
	2	救急看護	救急看護の特殊性、救急医療体制と救急システム 緊急性と重症度のアセスメント 全身状態の外観の観察とアセスメント 重要病態に対する救急処置と看護 (中毒・熱傷・ショック)	講義 グループワーク	永倉 郁恵	専門基礎分野 生化学 看護形態機能学Ⅰ 看護形態機能学Ⅱ 看護形態機能学Ⅲ 臨床微生物学
	3	救急看護	止血法	演習	永倉 郁恵	看護形態機能学Ⅲ 臨床微生物学
	4	重症集中ケアの看護	クリティカルケアの特殊性と看護	講義	永倉 郁恵	臨床薬理学 食事療法
	5	循環器疾患患者の看護	医療の動向 病態、検査・治療、処置と看護	講義	石川 清美	リハビリテーション療法 疾病治療論 病態と治療Ⅱ
	6	検査を受ける患者の看護	心電図、心エコー、脈波検査 心臓カテーテル検査を受ける患者の看護	講義	石川 清美	専門分野 看護学概論
	7		12誘導心電図、モニター装着している患者の看護	演習	石川 清美	経過に応じた看護技術Ⅰ 経過に応じた看護技術Ⅱ
	8	治療を受ける患者の看護	内科的治療 薬物療法 PCIを受ける患者の看護 外科的治療 冠動脈バイパス術を受ける患者の看護	講義	石川 清美	看護の思考過程 ヘルスアセスメント 基礎統合演習 成人看護学概論 医療安全 看護管理・看護倫理
	9		不整脈の治療と看護 恒久的ペースメーカ植え込み術を受ける患者の看護	講義	石川 清美	
	10		心不全教室	講義	石川 清美	
	11	虚血性心疾患患者の看護	急性期・回復期の看護 生命の維持と救命 基本的ニーズの充足と日常生活援助 不安・恐怖の軽減 生活習慣の改善 心臓リハビリテーション 退院指導	講義	石川 清美	
	12		慢性期・終末期の看護 自己管理への教育(心不全の病態や増悪因子) セルフモニタリング(血圧・体重)の重要性 定期受診の必要性 意思決定支援	講義	石川 清美	
	13	BLS		演習	大阪府ライフサポート協会	
	14					
	15	まとめ	事例検討に関するまとめ	45分	石川 清美	
16	終講試験	終講試験	45分			
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
	系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 医学書院					